

ことわざ・慣用句シリーズ

ここでは毎月、覚えておきたいことわざと慣用句を取り上げます。みなさんはどのくらい知っていますか？

慣用句

『首を長くする』

意味: とても待ち遠しく思うこと。

ひとこと: 首をのばして、人が来る方向を見る様子からきた言葉。

使い方: ぼくは学校の運動会を首を長くして待った。

『首をひねる』

意味: 分からないことや不思議なことに、考えをめぐらすこと。

ひとこと: 首をひねるの“ひねる”はねじって回すこと。

使い方: 彼はどうしたものかと首をひねっていた。

ことわざ

『後悔先に立たず』

意味: 物事が終わってから後悔しても取り返しがつかないという意味。

ひとこと: 類義語として『後の祭り』『死んでからの医者話』がある。

使い方: テストが終わってからぶつぶつ言っても、後悔先に立たずよ。

『弘法(こうぼう)にも筆の誤り』

意味: どんな名人でもときには失敗するものだという意味。

ひとこと: 類義語として『サルも木から落ちる』『かっぱの川流れ』がある。

使い方: 大学生の兄が簡単な計算を間違えた時、“弘法にも筆での謝りだ”と言って笑った。